



教育実践研究発表大会の講演から学ぶこと

過日のいわき市総合教育センター教育実践研究発表大会には、本市内外から数多くの先生方や生徒・保護者の皆様にご参会いただきありがとうございました。午前には、自主研究団体の発表やいわき生徒会長サミット報告、午後からは、「21世紀型の学校をめざして～『学びの共同体』の改革」と題して、学習院大学教授の佐藤学先生の教育講演会が催され、互いに研修を深め合う充実した一日となりました。

教育講演会では、佐藤先生が世界の教育の潮流や各国の教育の様子を紹介しながら、現在の日本が抱える教育的課題をもとに、これからのあるべき学校や教師の姿、授業そのものや授業研究のあり方などについて、具体的な事例を紹介しながら熱く語っていただきました。参加した先生方からも、「授業のあり方について、これまでわかっていなかったものがわかっていなかったことに気付かされた。」といった感想が数多く寄せられました。講演の中から、私たちは多くのことを学び、考えさせられました。

学校は子どものために存在する。学校の様々な教育活動の中心には子どもがいて、授業も授業研究も子どもの学びの姿を見取っていくことが大切であること。「教え合う関係」ではなく、「学び合う関係」を築くこと。そのために学校内や教室に「聴き合う関係」を築き、教師同士が互いに支え合い、学校内に「同僚性」を確立すること。

「教えることは学ぶことである。」私たちは教えることの専門家である教師として、謙虚にその意味を考え、学校の教育活動において実践を図ってきたいものです。

佐藤先生が今回のご講演を機会に、本センターのために残して下さった色紙には、次のような言葉が書き添えられていました。

「育てながら 育つ」



「教育実践研究発表大会」感想より

- ・ 「学ぶこと」の大切さと「聴く力」の必要性を痛感しました。私にとって「ジャンプ」の時間となりました。
- ・ 教師として学び合うことを学んでいかなければならないと思いました。ひとりでも学ぶことを楽しいと思える子どもを育てられるように、自分も学ぶことを楽しみながら、日々子ども達と向き合っていきたいです。

「子ども健康教育相談」から

当相談では「不登校」や「情緒」等、不適応に関する相談が多くを占めています。

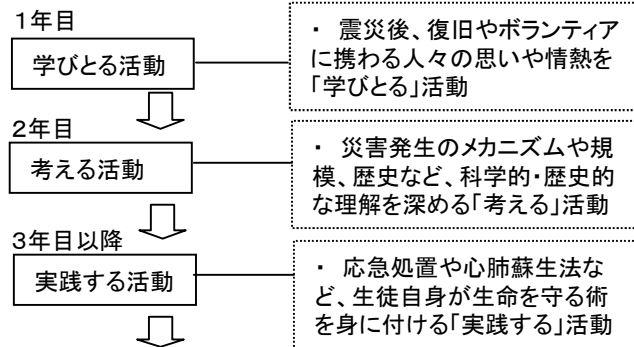


ある高校野球の強豪校の監督さんは、当然ながら日々の指導でキャッチボールを大事にしていると言う。相手は情を持って投げる、受け手は熱を持って受けるこの関係が情熱として共有されるとのこと。球速120キロの直球を球速130キロに見せる受け取り方(キャッチング)を学校や家庭が発揮できれば、今日的な課題は軽減できるのではないかと考えます。冬休み最終日、相談で関わった当人から「明日から3学期、登校します。」という電話に頼もしさを感じました。

子どもたちの心のケアについて

一被災地中学校の防災教育実践例から一

被災校の防災教育の視点として「ふるさとを担うづくり」が重要と考え、ねらいを焦点化した活動に取り組んでいる。



・ こうした取り組みで、達成感や充足感を感じることは、生徒達の心の復興につながる大切な活動の一つである。

参考「教育展望12月号」

「研修主任研修」講座資料より

＝目的に応じた研修の手法＝

目 的 → 手 法

- ① 知識、技能の習得 → 講義法、プログラム学習法等
- ② 問題解決能力の向上 → プレイライティング、KJ法等
- ③ 行動、態度等の変容 → ロールプレイング、ディベート等
- ④ 研修の効果的な運営 → アイスブレイク、ファシリテーション

